

「おしゃべり・打ち合わせに使える」、「長時間居ることができる」、「読書・勉強・仕事ができる」といった機能項目と関連が強い因子である（項目列举の順番は、因子負荷量の高い項目から）。〈交流〉因子は、「店主・店員との交流がある」、「店内のイベントを介して客同士の交流がある」、「地域の情報が得られる」といった機能項目と関連が強い。〈話題性〉因子は、「写真映えする（店の内外、飲み物・食べ物）」、「話題性がある」、「店の外観や内装がおしゃれである」といった機能項目と関連が強い。〈食事〉因子は、「美味しい食べ物がある（菓子、軽食を含む）」、「空腹を満たすことができる」といった機能項目と関連が強い。

3.2 ゆとりの有無とカフェに求める機能

上記で述べた4つの因子について、〈ゆとりのある人〉と〈ゆとりのない人〉で差があるかどうか分析をおこなった。t検定の結果、有意な差が認められたのは、〈交流〉機能のみであった。

① 〈長居〉機能に対する必要度

〈ゆとりのある人〉と〈ゆとりのない人〉の2グループの分散の差に関するルビーン検定（2グループの分散が等しいという仮説を検証）結果に基づき、等分散性を仮定して、2グループの平均の差に関するt検定をおこなった。その結果、〈長居〉機能の必要度について、ゆとりの有無による有意差はないことがわかった。

② 〈交流〉機能に対する必要度

〈ゆとりのある人〉と〈ゆとりのない人〉の2グループの分散の差に関するルビーン検定結果に基づき、等分散性を仮定して2グループの平均の差に関するt検定をおこなった。その結果、〈交流〉機能の必要度について、ゆとりの有無による統計的に有意な差（5%水準）が認められた。

③ 〈話題性〉機能に対する必要度

〈ゆとりのある人〉と〈ゆとりのない人〉の2グループの分散の差に関するルビーン検定結果に基づき、等分散性を仮定して2グループの平均の差に関するt検定をおこなった。その結果、〈話題性〉機能の必要度について、ゆとりの有無による有意差はないことがわかった。

④ 〈食事〉に対する必要度

〈ゆとりのある人〉と〈ゆとりのない人〉の2グループの分散の差に関するルビーン検定結果に基づき、等分散性を仮定して2グループの平均の差に関するt検定をおこなった。その結果、〈食事〉機能の必要度について、ゆとりの有無による有意差はないことがわかった。

3.3 ゆとりの有無とカフェ利用実態

4つの因子の分析結果から、「長居」、「話題性」、「食事」の3つの因子については有意差が見られなかったが、「交流」について統計的に有意な差があることがわかった。この結果から、〈交流〉機能に対する必要度については、日頃の生活の時間的ゆとりの有無により差があることがわかった。次に、①ゆとりの有無によるカフェ利用頻度の違い、②カフェ滞在時間や支出額の違い、あるいは一ヶ月に使用できる金額の違いについて分析をする。

① ゆとりのある人とない人では、利用頻度に差がでるのか（クロス集計）

「ゆとりがない人」のほうが、カフェの利用頻度は高い（図表1）。カフェ利用が「週1以上」と「2週間に1回程度」という人の割合は、ゆとりがない人では53.5%を占めるのに対して、ゆとりのある人は41.4%にとどまる。

図表1 ゆとりの有無とカフェ利用頻度

	□週1以上	□2週間に1回程度	□月に1度程度	□2~3ヶ月に1回以下
ゆとりがない	24.2%	29.3%	25.5%	21.0%
ゆとりがある	17.4%	24.0%	32.2%	26.4%

②ゆとりのある人とゆとりのない人では、滞在時間、一度の支出額、1ヶ月に使用できる金額に違いがあるのか（t検定）

滞在時間と一度の支出額は統計的に有意な差が見られなかったが、1ヶ月に使用できる金額に関して5%水準で差があることがわかった。

4 考察

これまでの分析結果から、滞在時間と一度の支出額に関してはゆとりの有無による差が見られなかった。ただし、ゆとりのある人は〈交流〉ニーズが高く、ゆとりのない人は〈交流〉をするための機能を求めていることがわかった。

更に利用頻度と1ヶ月に使用できる金額は、ゆとりのない人の方が多いことがわかった。このことから、「サードプレースを求めているのは、ゆとりがある人」という仮説が裏付けられたと考える。ゆとりのない人にとってのカフェは、〈交流〉の機能を求めないセカンドプレース（職場）に近い環境を求めており、1ヶ月に使用できる金額がゆとりのある人より多いため、利用頻度が高いのではないかと考える。

【参考文献】

- 杉山大輔・白肌邦夫・小坂満隆，2014，「サードプレースを包含したサービスビジネスモデルの可能性」『研究・イノベーション学会 年次学術大会講演要旨集』29：763-769.
- 藤岡章子，2015，「カフェというマーケティング・コミュニケーション・プラットフォームの潜在的可能性」『龍谷大学経営学論集』55（1）：30-43.

(12) 生活充実度はカフェ利用形態に影響を与えるか？

中野 沙耶

1 目的

最近、コンビニエンスストアやファストフード店などで、本格的なコーヒーや紅茶が販売されるようになった。カフェ・喫茶店に行かずとも、身近な場所で手軽にコーヒーや紅茶を楽しめるようになったのである。そのような状況でも、茗荷谷地域にはカフェ・喫茶店が多く、多種多様なカフェ・喫茶店がある。茗荷谷を利用する人々はどのようにしてカフェを利用しているのだろうか。

本稿は、生活充実度がカフェ利用形態に影響を与えるかを明らかにすることを目的とする。

2 方法

生活充実度がカフェ利用形態に影響を与えるか調べるために、以下の方法で分析をおこなった。生活充実度については、質問 Q11「あなたは日頃の生活の中で、どの程度充実感を感じていますか？」（選択肢は、「1. 十分感じている」、「2. まあ感じている」、「3. あまり感じている」、「4. ほとんど（全く）感じている」）を変数として利用した。生活充実度の単集レベルの傾向は、「十分感じている」(21.1%)、「まあ感じている」(65.8%)と答えた人が多い。生活充実度を感じている人が9割近くに達することがわかった。

①生活充実度によって利用頻度に差があるかどうか調べるために、クロス集計をおこなった。利用頻度については、質問 Q1「あなたは月に何回くらいカフェ・喫茶店を利用しますか？（テイクアウトを除く）」（選択肢は、「1. ほぼ毎日」、「2. 週3~4回」、「3. 週1~2回」、「4. 2週間に1回程度」、「5. 月に1回程度」、「6. 2~3ヶ月に1回程度」、「7. 滅多に利用しない」、「x. 利用したことがない」）を変数として利用した。

②生活充実度によって滞在時間に差があるかどうか調べるために、クロス集計とt検定をおこなった。滞在時間については質問 Q3「あなたはカフェ・喫茶店で、1回に、何時間くらい、滞在しますか？」（時間を数字で記入）を変数として利用した。

③生活充実度によって支払額に差があるかどうか調べるために、クロス集計とt検定をおこなった。支払額については質問 Q4「あなたはカフェ・喫茶店で、1回に、いくら程度、使いますか？（テイクアウトを除く）」（金額を数字で記入）を変数として利用した。

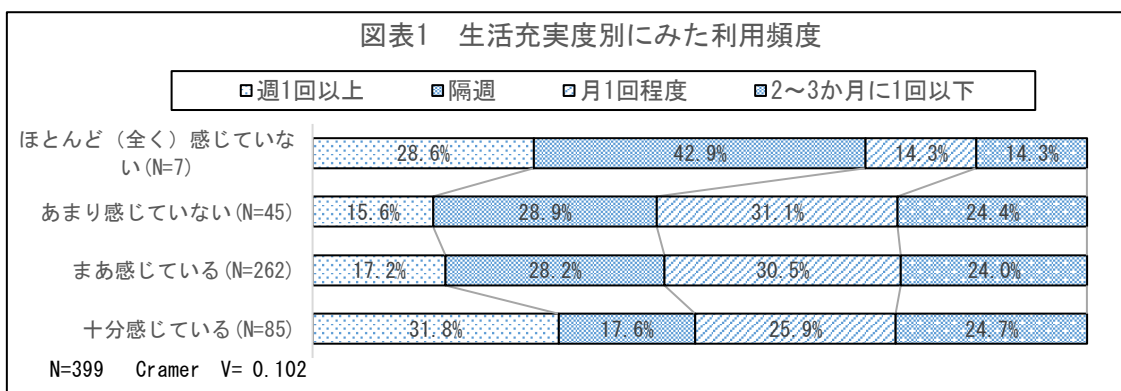
④生活充実度によって同伴者の有無に差があるかどうか調べるために、クロス集計をおこなった。同伴者については質問 Q2「カフェ・喫茶店を利用するときは、「一人」が多いですか？「誰かと一緒」が多いですか？」（選択肢は、「1. 一人が多い」、「2. どちらともいえない」、「3. 誰かと一緒が多い」、「x. 利用したことがない」）を変数として利用した。

3 結果

3.1 生活充実度によってカフェの利用頻度に差があるか

利用頻度の単集結果は、「1. ほぼ毎日」25.9%、「2. 週3~4回」2.7%、「3. 週1~2回」17.8%、「4. 2週間に1回程度」25.9%、「5. 月に1回程度」28.6%、「6. 2~3ヶ月に1回程度」8.5%、「7. 滅多に利用しない」15.3%、「x. 利用したことがない」0.7%である。選択肢1~3を合わせた累積割合は20.9%であり、跡見生は約5人に1人が週1回以上カフェ・喫茶店へ行くということがわかった。また、月1回以上カフェ・喫茶店へ行く人は75.5%に達する。

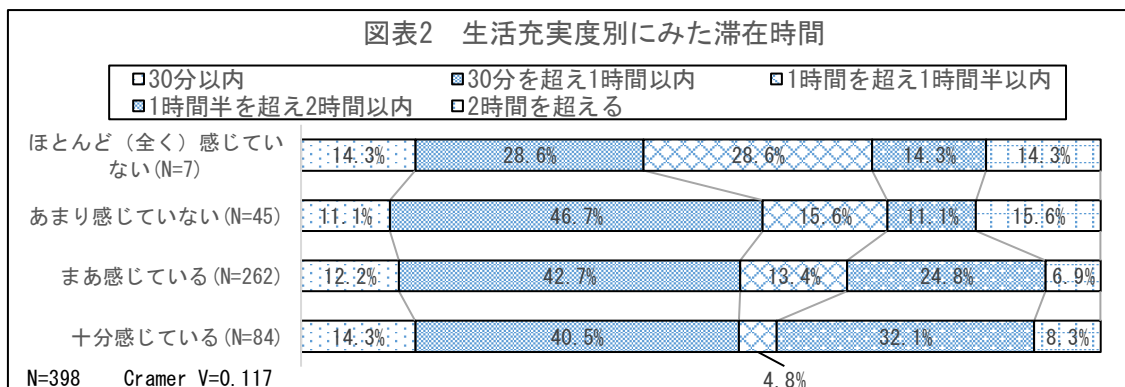
生活充実度によってカフェの利用頻度に差があるかどうか調べるためにクロス集計をおこなった。カフェの利用頻度は利用頻度に応じて、「週1回以上」「隔週」「月1回程度」「2～3ヶ月に1回以下」に4分して分析をおこなった（利用したことがない人は分析から除外した）。図表1から、カフェ利用が「週1回以上」と「隔週」という人を合わせた割合をみると、「ほとんど（全く）感じていない」という人では71.5%と多く、他のカテゴリに比べ、20ポイント以上も差がある。生活充実度を「十分感じている」と「まあ感じている」と「あまり感じていない」という人よりも、生活充実度を「ほとんど（全く）感じていない」という人の方が、カフェ利用は多めになることがわかった。



3.2 生活充実度によってカフェでの滞在時間に差があるか

滞在時間の単集レベルの結果は、最小値15分、最大値360分、平均値83分、中央値60分、最頻値60分、標準偏差43分である。短時間の利用者もいるが、平均値が83分と一時間を越えることから、跡見生のカフェ滞在時間は長めになることがわかった。

生活充実度によってカフェでの滞在時間に差があるかどうか調べるために、クロス集計をおこなった。クロス集計をおこなうにあたって、滞在時間を30分間隔で分け、5カテゴリとした。図表2から、カフェの滞在時間が「30分以内」という人の割合は、生活充実度別に大きな差はない。しかし、「30分を超え1時間以内」という人の割合は、生活充実度を「ほとんど（全く）感じていない」という人では28.6%となり、他のカテゴリに比べて低く、10ポイント以上も差がある。一方、「1時間を超え1時間半以内」という人の割合は、「十分感じている」という人では4.8%、「ほとんど（全く）感じていない」という人では28.6%となり、生活充実度を感じていない人ほど高い割合を占める。「1時間半を超え2時間以内」と「2時間を超える」という人を合わせた割合は、生活充実度を感じている人ほど多くなり、生活充実度を感じている人の方がカフェでの滞在時間が若干長めになることがわかった。



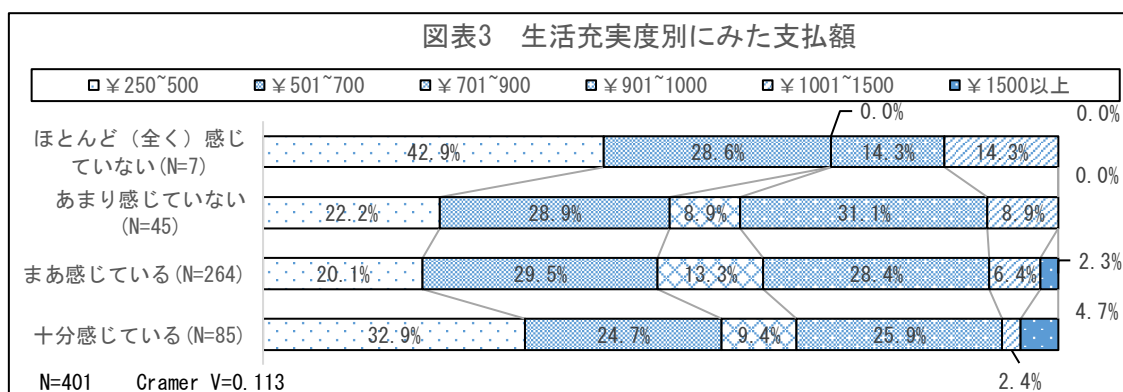
生活充実度の違いによってカフェの滞在時間に差があるかどうかを調べるために、t検定をおこなった。充実感を感じている側（「十分感じている」と「まあ感じている」という人）では平均滞在

時間 83 分、感じていない側（「あまり感じていない」と「ほとんど（全く）感じていない」という人）では平均 90 分となった。生活充実度を感じていない側の方がカフェの滞在時間が長い、統計的に有意な差とは認められなかった。

3.3 生活充実度によってカフェでの支払額に差があるか

支払額の単集レベルの結果は、最小値 250 円、最大値 3000 円、平均値 802 円、中央値 700 円、最頻値 1000 円、標準偏差 330 円である。飲み物しか頼まないような金額の人もあるが、平均値が 802 円であることから、跡見生は飲み物だけでなく他のメニューも頼む人が多いと推測される。

生活充実度によってカフェでの支払額に差があるかどうか調べるために、クロス集計をおこなった。クロス集計をおこなうにあたって、支払額を 6 カテゴリに分けた。図表 3 から、カフェでの支払額が「¥250～500」という人の割合は、生活充実度を「ほとんど（全く）感じていない」という人では 42.9%を占め、他のカテゴリに比べて 10 ポイント以上も多い。「¥1500 以上」という人はいなかった。なお、「あまり感じていない」という人でも、「¥1500 以上」は 0.0%である。生活充実度が低い人は、カフェでの支払額が低いことがわかった。



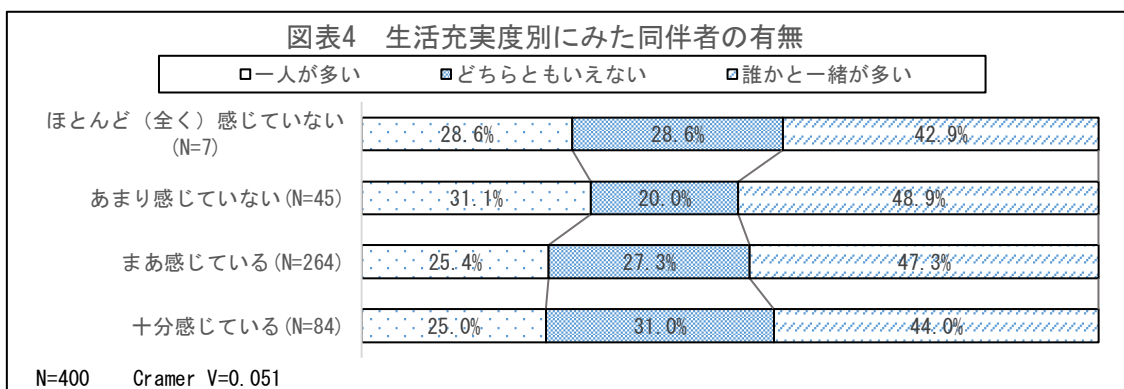
生活充実度の違いによってカフェでの支払額に差があるかどうかを調べるために、t 検定をおこなった。ルビーン等の分散性の結果に基づき、等分散を仮定する t 検定をおこなったところ、有意な差がないことがわかった。なお、充実を感じている側（「十分感じている」と「まあ感じている」という人）では平均 808 円、感じていない側（「あまり感じていない」と「ほとんど（全く）感じていない」という人）では平均 788 円となった。

3.4 生活充実度によってカフェでの同伴者の有無に差があるか

同伴者の単集レベルの結果をみると、「誰かと一緒が多い」を選んだ人が全体の半数近くを占めていることから、跡見生は一人利用よりも複数人での利用が多いことがわかった。

生活充実度によってカフェでの同伴者の有無に差があるかどうか調べるために、クロス集計をおこなった。図表 4 から、カフェでの同伴者について、「一人が多い」という人の割合は、生活充実度を「十分感じている」「まあ感じている」という人では 25%程度であるのに対して、「あまり感じていない」という人では 31.1%、「ほとんど（全く）感じていない」という人では 28.6%と、やや多い。

「誰かと一緒が多い」という人の割合は生活充実度別に大きな差はみられないが、どのカテゴリでも 4 割以上占める。生活充実度を「あまり感じていない」と「ほとんど（全く）感じていない」という人は、「まあ感じている」と「十分感じている」という人に比べて、カフェを利用する際に「一人が多い」という人が若干多めになる。ただし、クラマーの関連係数は 0.051 となり、2 変数の関連の度合いは小さい。



4 考察

3.1 の結果から、カフェ利用頻度は生活充実度を感じていないという人の方が高いことが示された。3.2 の結果から、カフェでの滞在時間は生活充実度を感じているという人の方が若干長めになる傾向がわかった。3.3 の結果から、カフェでの支払額は生活充実度を感じているという人の方が若干高く、支払額が1500円以上の人もいることがわかった。3.4 の結果から、カフェでの同伴者は生活充実度を感じていないという人の方が1人利用の割合がやや多いことがわかった。

これらの結果から、生活充実度を感じている人よりも感じていない人の方が利用頻度が高く、1人利用の割合が若干多い。反対に、生活充実度を感じていない人よりも感じている人の方が、カフェでの滞在時間が若干長めで、カフェでの支払額が若干高い。よって、生活充実度が低い人は1人で用事を済ませるために、カフェを利用することが多いと考えられる。生活充実度が低いからカフェ利用頻度が低くなるわけではないと考えられる。一方で、生活充実度が高い人はカフェでの滞在時間が長めで、カフェでの支払額が高めになることで、カフェの利用頻度は少なくなるのだろう。生活充実度が高いからカフェをたくさん利用するわけではないと考えられる。

【参考文献】

伊藤 眞, 2016, 「執筆計画 「私的カフェ論」 覚書」『国土館大学経営論叢』5 (1・2) : 163-167.

(13) ゆとりのある人はカフェにどのような機能を求めているのか？

濱田美侑

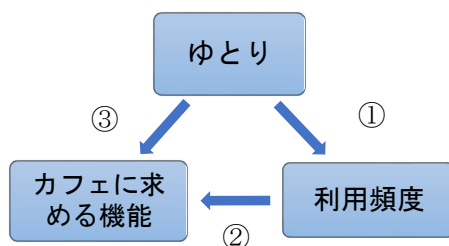
1 方法

カフェではお金を出して商品を買うことで店内を利用することができるが、カフェ利用者のさまざまな行動を見ると、飲食だけを目的としている人は少ないのではないかと感じられる。つまり、カフェの第一の利用目的は「飲食」にあるのではなく、「空間・場所の利用」にあるのではないかということだ。もし、それが事実であるならば、そこには社会がそうさせているとも考えられる。また、カフェ側は顧客のニーズに合わせた形態を目指す傾向にあるので、利用者のカフェに求める機能の関連が何かを調べることで、これからのカフェ形態を予測することもできるのではないかと考えている。さらに、時間が限られている中で、忙しく生きている人、そうでない人がいる。「カフェは時間を上手に使うための場所だ」と仮定するならば、カフェ利用者のゆとりがある人とない人どちらが時間を上手に使っているか、ということも考えていきたい。

2 方法

次の3つの仮説を検証する。①時間的ゆとりはカフェ利用頻度を左右する、②カフェ利用頻度によってカフェに求める機能は異なる、③時間的ゆとりの程度によってカフェに求める機能は異なる。①については、クロス分析で「ゆとり」と「利用頻度」の2変数の関連を検討する。②については、まず17項目のカフェ機能について必要度を尋ねる質問を利用して、ニーズが高い機能を見つける（「非常に必要」「かなり必要」を選択している割合が高い機能を見つける）。次に、17項目を因子分析した結果を用いて、「利用頻度」との関連を分析する。③については、クロス集計で「ゆとり」と「カフェに求める機能」の2変数の関連を検討する。仮説①～③は図表1のように表すことができる。

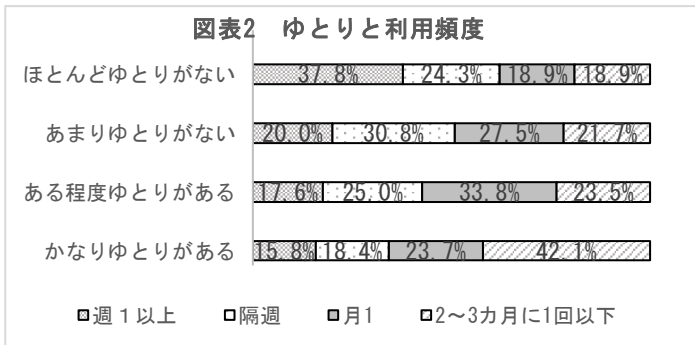
図表1 仮説モデル



3 結果

3.1 ゆとりと利用頻度

どのくらい時間に余裕があるかという質問で、「かなりゆとりがある」と答えた人は全体の9.7%、「ある程度ゆとりがある」は51.1%、「あまりゆとりがない」は30.0%、「ほとんどゆとりがない」は9.2%という結果となり、ゆとりがある人のほうがやや多いことがわかった。また、全体のカフェ利用頻度は、「ほぼ毎日」が0.5%、「週3～4回」が2.7%、「週1～2回」が17.9%、「2週間に1回程度」が26.1%、「月に1回程度」が28.8%、「2～3カ月に1回程度」が8.6%、「滅多に利用しない」が15.4%。高頻度利用者の割合が小さいため、カテゴリをまとめ、「週1以上」、「隔週」、「月1」、「2～3カ月に1回以下」の4つにした。「週1以上」が20.1%、「隔



週」26.1%、「月1」が29.1%、「2~3カ月に1回以下」が24.3%となる。4カテゴリにまとめた利用頻度とゆとりの関連をクロス集計で検討したところ（図表2）、ゆとりがある人ほど利用頻度が低く、ゆとりがないほど利用頻度が高くなることがわかる。

3.2 カフェに求める機能と利用頻度

カフェに求める機能で特に「非常に必要」「かなり必要」とされたのは、「座れる場所がある」(95.4%)、「時間をつぶすことができる」(89.0%)、「一人でも気軽に利用できる」(85.6%)、「美味しい飲み物がある」(85.3%)、「長時間居ることができる」(75.5%)だった。「カフェ・喫茶店にはどのような機能が必要だと思うか」と質問し、17種類の機能それぞれについて「1. 全く必要でない」から「7. 非常に必要だ」の7段階で答えてもらった結果だ（17種類の機能については図表3を参照）。

17種類のカフェ機能に対する必要度を用いて因子分析（バリマックス回転、最尤法）を行い、4つの因子を抽出した。〈コミュニティ〉因子は、「店内のイベントを介して客同士の交流がある」「地域の情報が得られる」「店主・店員との交流がある」と関連が強い因子である（項目列挙の順番は、因子負荷量の高い項目から）。〈滞在〉因子は「長時間居ることができる」「読書・勉強・仕事ができる」「時間をつぶすことができる」「おしゃべり・打ち合わせに使える」と関連が強い。〈流行〉因子は、「写真映える（店の内外、飲み物・食べ物）」「話題性がある」「店の外観や内装がおしゃれである」と、〈味〉因子は、「美味しい飲み物がある」「美味しい食べ物がある」と、それぞれ関連が高い因子である。

カフェに求める機能として「非常に必要だ」と答えた人が最も多かった「座れる場所がある」「時間をつぶすことができる」は、〈滞在〉因子と関連する機能である。また、3番目と5番目に多かった「一人でも気軽に利用できる」「長時間居ることができる」も〈滞在〉因子と関連する機能である。なお、4番目に多かった「美味しい飲み物がある」は、〈味〉因子と関連する。

図表3 カフェに求める機能に関する分析結果^a

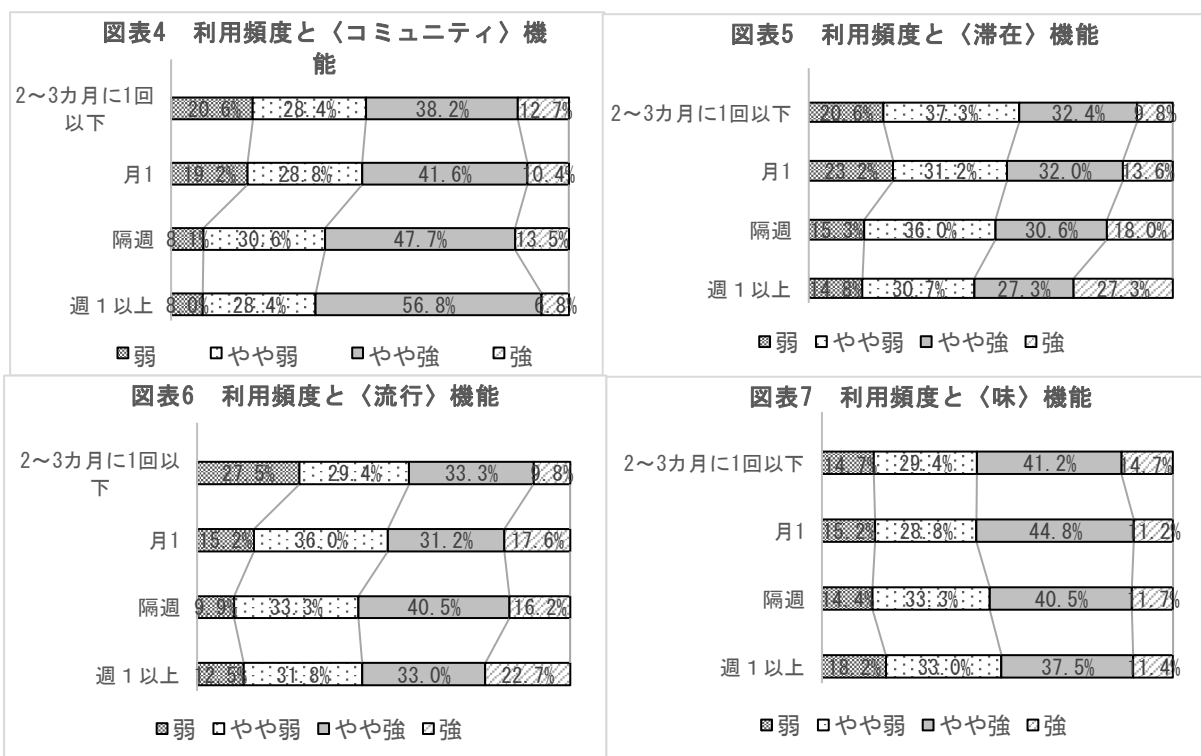
	第1因子 コミュニティ	第2因子 滞在	第3因子 流行	第4因子 味	共通性
美味しい飲み物	-0.03	0.20	0.09	0.67	0.50
美味しい食べ物	0.08	0.04	0.09	0.75	0.58
空腹を満たせる	0.12	0.10	0.05	0.44	0.22
のどの渇きをいやす	0.02	0.16	0.01	0.39	0.18
座れる場所がある	-0.14	0.47	0.02	0.34	0.36
時間が潰せる	-0.02	0.60	0.04	0.23	0.42
待ち合わせ利用可	0.31	0.43	0.16	0.05	0.31
おしゃべり・打ち合わせ可	0.04	0.56	0.16	0.17	0.37
長滞在可	0.02	0.70	0.14	0.10	0.52
読書・勉強・仕事可	0.24	0.63	0.10	-0.04	0.47
一人利用が気軽	0.06	0.45	0.03	0.20	0.25
店主・店員との交流	0.77	0.11	0.21	0.09	0.66
イベントを通して客の交流	0.89	0.07	0.25	0.06	0.87
地域の情報が得られる	0.81	0.03	0.26	0.06	0.73

写真映え	0.27	0.14	0.78	0.06	0.70
話題性	0.29	0.11	0.83	0.09	0.79
外観内装がおしゃれ	0.20	0.22	0.68	0.12	0.57
因子寄与	2.45	2.36	2	1.65	8.46
寄与率	14.4	13.9	11.9	9.7	49.8

(注) 最尤法、バリマックス回転による。因子0.50以上を太字にした。

この4因子を用いて、利用頻度はカフェに求める機能に関連があるかを調べる。各因子は、因子得点の大きさによって4分割し、因子の持つ特徴をどの程度有しているかによって、「強」「やや強」「やや弱」「弱」とした。作成した4変数は、〈コミュニティ〉〈滞在〉〈流行〉〈味〉の各機能に対する必要度の強さを4段階で示す変数となる。

図表4～7から、〈コミュニティ〉〈滞在〉〈流行〉の3つの機能は、利用頻度が高い人ほどそれらの機能を求めていることがわかる。〈味〉機能だけは、逆に、利用頻度が低い人ほど味の機能を求めていることが読み取れる。また、〈コミュニティ〉、〈滞在〉、〈流行〉ではクラーマーの v が0.1を超えて利用頻度との関連が示されたが、〈味〉では0.044となり、あまり関連がないこともわかる。



3.3 「ゆとり」と「カフェに必要な機能」の関連

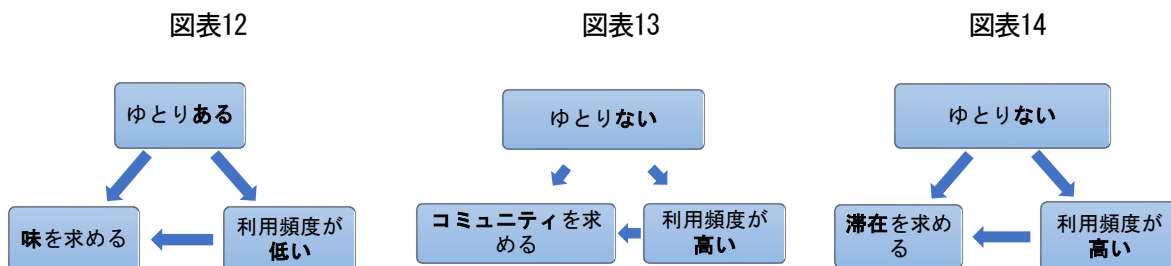
図表8～11から、ゆとりがない人ほど〈コミュニティ〉と〈滞在〉機能を求め、ゆとりがある人ほど〈流行〉と〈味〉機能を求めていることがわかる。



4 考察

3つの分析から「ゆとり」「利用頻度」「カフェに求める機能」のすべてに関連をもっているものをピックアップし、図表12～14のようにまとめた。図表12は変数間の関連が低いいためあまり有力ではないが、図表13と図表14の関連は大きい。ゆとりがない人ほど利用頻度が高く、〈コミュニティ〉機能や〈滞在〉機能を求めているということだ。3.2で述べたように「非常に必要だ」の割合が高い機能を最も多く含んでいたのは〈滞在〉機能だ。「滞在」する環境があることは「利用頻度が高い人」の大きな特徴とも言える。

「時間をつぶすことができる」に強く必要性を感じる人が多かったことから、ゆとりがある人のほうがカフェの利用頻度が高いのかと思ったため、ゆとりがない人のほうがカフェの利用頻度が高いというのは意外な結果だった。カフェの店舗数も近年増え続けており、利用者は好きな時間で近くのカフェを利用することができる。ゆとりがない人は隙間時間を縫って、カフェで自分に必要な時間を過ごしているのかもしれない。



第5章 来店者アンケート「なぜカフェ・喫茶店を利用するのか？」

第1節 調査の方法

濱田美侑

- 調査対象** 文京区茗荷谷エリア4地域（小日向1～4丁目、小石川4～5丁目、音羽1～2丁目、大塚1～3丁目）に位置するカフェ・喫茶店（37店）の来店者（下図に対象店舗の位置を●で示した）
- 回収数** 有効回収店舗数18店 有効回収数275人
- 調査期間** 平成29年10月5日～27日の間の約2週間（店舗により異なる）
- 調査目的** 「なぜカフェ・喫茶店を利用するのか？」をテーマに、茗荷谷エリアのカフェ・喫茶店の来店者を対象に調査し、カフェ・喫茶店のあり方について考察する。
- 調査方法** 店内に調査票を設置し回答してもらう方法。
- 調査項目**
- ① カフェ・喫茶店の利用の仕方について（利用頻度、利用時間等）
 - ② 必要な時間・空間とその確保状況について
 - ③ 属性について（性別、年齢、お住まい等）
- その他** 来店者調査の対象としたカフェ・喫茶店の店長にお願いするアンケートも併せて実施した。有効回収数19店（来店者調査の協力店と店長調査の協力店は一致しない場合もある）。



第2節 調査の結果

落合琴美・紺野くるみ・佐藤未玖・白井麻莉・長瀬真穂

(1) 性別・年齢別によるカフェ・喫茶店利用の特徴

1 回答者の性・年齢構成

		性別		合計	割合
		男性	女性		
年齢層	若年層 (30代前半まで)	43	53	96	36.5%
	壮年層 (30代後半～40代後半)	21	57	78	29.7%
	中年層 (50代前半～60代前半)	19	41	60	22.8%
	高年層 (60代後半以上)	12	17	29	11.0%
合計		95	168	263	100.0%
割合		36.1%	63.9%	100.0%	

2 カフェ・喫茶店の利用状況

2.1 性別の特徴

利用頻度は、男性は週3～4回、女性は週1～2回の利用が多い。同伴状況に関しては、どちらも1人での利用が目立つ。滞在時間は、男性が短時間(35分未満)であるのに対し、女性は長時間(70分以上)カフェ・喫茶店を利用する傾向がある。また、支払額は、男性が低価格(600円未満)であるのに対し、女性は低価格・高価格(1000円以上)のどちらの割合も高い。支払許容額は、男性の方が高価格(1000円以上)と考える傾向が高いが、男女にあまり差は見られなかった。

2.2 年齢層別の特徴

利用頻度は、中年層のみが週3～4回、その他の年齢層は週1～2回の利用が多い。同伴状況に関しては、性別と同様に1人利用が目立っていたが、中年層は他の年齢層と比較すると誰かと一緒が多い。滞在時間は、全ての年齢層が中程度(35～60分)での利用が目立つ。短時間(35分未満)利用か長時間(70分以上)利用であるかの観点からみると、これもまた中年層のみが短時間利用、その他の年齢層は長時間利用の傾向がある。支払額は、いずれの年齢層でも低価格(600円未満)が多い。その占める割合には年齢層による違いが大きく、若年層と壮年層が40%前後であるのに対し、中年層は約50%、高年層に至っては約70%であった。以上から、高年層は低価格での利用が多いことが分かる。支払許容額もまた、高年層は低価格(600円未満)の傾向が高い。その他の年齢層は低価格よりも中価格(600～1000円未満)、そして高価格(1000円以上)と考える傾向が強かった。

3 カフェ・喫茶店に求める機能

カフェ・喫茶店に求める機能に関する設問(17項目、回答選択肢は「全く必要でない」から「非常

に必要だ」の7段階)において「非常に必要だ」と答えた割合を基に、性別・年齢層別に共通する機能・異なる機能に注目し、特徴を探る。

3.1 性別の特徴

「座れる場所がある」という機能は、最も多くの人から重要視されている。「非常に必要だ」と答える人の割合は男女ともに7割を超える。男女の差なく、必要性を強く感じられている機能となっていることがわかる。

男女差が5ポイント以上あるものには、以下の7つ機能が存在していた(以下、降順)。「美味しい飲み物がある」は男性41.5%VS女性30.9%、「店主・店員との交流がある」は男性10.6%VS女性3.0%、「読書・勉強・仕事ができる」は男性34.1%VS女性27.3%、「地域の情報が得られる」は男性6.6%VS女性0.6%、「店内のイベントを介して客同士の交流がある」は男性6.4%VS女性0.6%、「店の外観や内装がおしゃれである」は男性12.8%VS女性7.4%、「のどの渇きをいやすことができる」は男性25.5%VS女性20.5%であり、いずれも女性よりも男性がこれらの機能を「非常に必要だ」と考える傾向にあった。

3.2 年齢層別の特徴

年齢層別に関しては、多くの項目で年齢層による特色がある。「店主・店員との交流がある」「店内のイベントを介して客同士の交流がある」「地域の情報が得られる」の項目においては、違いをみることが出来なかったが、それ以外の項目は最大%と最低%の差が5ポイント以上あり、それぞれに特徴があった。

「美味しい飲み物がある」「美味しい食べ物はある」のメニューに関する機能は、壮年層が多く求めている。「空腹を満たすことができる」「のどの渇きをいやすことができる」の満足感に関する機能は高年層が多く求めている。一方、「座れる場所がある」は全ての年齢層において関心が強かったが、中でも若年層はこの機能を重要視する傾向がある。

「時間をつぶすことができる」「おしゃべり・打ち合わせに使える」「長時間居ることができる」「読書・勉強・仕事ができる」のスペースとしての機能においても、若年層の支持は高い。「一人でも気軽に利用できる」といった機能も、若年層でより多く必要とされていることが分かる。

「待ち合わせに利用することができる」は、若年層と中年層が必要とする機能である。「写真映えする」「話題性がある」「店の外観や内装がおしゃれである」の流行に関する機能は、若年層にとって必要とされている機能である一方で、中年層には必要とされてはいなかった。

4 カフェ・喫茶店の空間

ふだんの生活のなかで、どのような「時間や空間」を必要だと感じているのか、そうした「時間や空間」はどの程度確保できているのかについて、7種類の「時間や空間」を示して質問した。必要度については「全く必要でない」から「非常に必要だ」の7段階、確保度については「確保できていない」から「確保できている」の4段階の選択肢から答えてもらった。さらに、カフェ・喫茶店はそのような「時間や空間」を得られる場所だと思うかどうかについても、「はい」「いいえ」で答えてもらった。

7種類示した「時間や空間」について、「非常に必要だ」と答えた割合を基に、性別・年齢層別に共通するカフェ・喫茶店ニーズ、異なるカフェ・喫茶店ニーズに注目し、特徴を探る。

4.1 性別の特徴

「ゆっくり休息しリラックスできる時間や空間」は、最も多くの人から「非常に必要だ」と思われている項目である(男性44.7%、女性42.4%と、男女の差はない。ともに7項目で一番割合が高くなった)。一方で、その空間を確保できている人は少なく、また、男女の差もある(男性13.9%、女性

19.1%)。しかし、カフェ・喫茶店はその機能を得られる場所であるかという質問に対しては9割以上もの人が「はい」と回答し、男女差も小さい。

カフェ・喫茶店が有する機能という点については、他にも「課題や考え事など何かに集中できる時間や空間」「親しい人と共有する時間や空間」「気分転換できる時間や空間」において、大半の人(7、8割に達する)が、カフェ・喫茶店は、そうした時間や空間を得られる場所だと答えていた。男女差もほとんど見られなかった。

男女に差が最も表れていた項目は、カフェ・喫茶店は「日常性から解放される時間や空間」という機能を得られる場所であるかであった。男性が38.9%であったのに対し、女性は59.1%と20ポイント近く差が見られた。男性よりも女性の方が、カフェ・喫茶店はこの機能を得られる場所だと考える傾向がある。

4.2 年齢層別の特徴

性別と同様に「ゆっくり休息しリラックスできる時間や空間」「親しい人と共有する時間や空間」「気分転換できる時間や空間」の3つの項目に関しては、年齢層による差はなく、全ての年齢層がこれらの機能をカフェは所有していると考えている。年齢層による差が最も表れていた項目は、「日常性から解放される時間や空間」に関するものであった。この機能を普段の生活の中で確保できているのは、高年層が40.0%であるのに対し、壮年層は5.7%であった。また、カフェ・喫茶店は同機能を得られる場所であるかに関しては、高年層が74.1%であるのに対し、若年層は41.1%であった。以上から、高年層はカフェ・喫茶店にて同機能を確保している可能性があると考えられる。

(2) カフェ・喫茶店のタイプ分け

1 サードプレイスとしての機能を持つカフェ・喫茶店

我々は調査設計を行う際、先行研究として、オルデンバーグの〈サードプレイス〉の概念を参考にした。サードプレイスは、「家庭と仕事の領域を超えた個々人の、定期的で自発的でインフォーマルな、お楽しみの集いのために場を提供する、さまざまな公共の場所の総称」（オルデンバーグ、1989=2013：59）であり、カフェ・喫茶店はサードプレイスとしての機能を持っていると考えた。

杉山・白肌・小坂（2014）は、「自分の一番好きな仲間から逃れることができる場所が大いに必要だ」と指摘、「その逃れる先がもう一つの我が家、サードプレイスだ」という。杉山らは、「サードプレイスとは、ファーストプレイス=家庭、セカンドプレイス=職場、に対し、サードプレイス=自分として落ち着いていられる交流の場（社交場）」と定義する。家は私的（プライベート）な環境だが、サードプレイスは公的（パブリック）である。つまり家と似た環境が、精神的な心地よさと支えを与えるのだと考えている。

さらに杉山らは、日本におけるカフェの多くはPrivate Space型（脱役割・解放の生活・居場所）であり、会話を楽しむより一人ないし少数で静かに居場所として活用されているケースが多いことを指摘する。「居場所の確保」と称され、「日ごろの役割を脱した一個人の姿でリラックスして過ごすことができる」とされている。つまり、プライベートスペースというのがサードプレイスに期待されているのである。

本研究では、カフェ・喫茶店の〈サードプレイス〉としての機能に注目し、パブリックスペースとして「交流の場（社交場）」という側面と、プライベートスペースとして「脱役割・解放の場」「自分として落ち着いていられる場（居場所）」「リラックスして過ごす場」いう側面の両方を、カフェ・喫茶店を利用する目的になっていると考えた。では、こうした利用者の目的に適ったカフェ・喫茶店はどのようなタイプの店なのだろうか。

2 先行研究におけるカフェ・喫茶店のタイプ分け

田中瑞季・梅崎修（2012）は、カフェを3つのタイプに分類している。最も標準的な喫茶店で、喫茶サービスのみを提供する「喫茶店タイプ」、チェーン店に多く、顧客がコーヒーを運ぶ営業スタイルであり、店舗スペースも広い「セルフタイプ」、喫茶以外の機能を持った喫茶店である「多目的カフェ」である。

3 我々が考えるカフェ・喫茶店のタイプ分け

以上の先行研究を参考に、我々も茗荷谷周辺エリアのカフェ・喫茶店を以下のように分類した。①従業員がお客様のために料理を運び提供する「フルサービス型」、②お客様が自らレジへ注文をする「セルフタイプ型」、③パン屋・ケーキ屋など、飲食に関するものとのコラボレーションである「同業種融合型」、④食事だけではなく、会話や人との交流を目的とした「コミュニティ型」、⑤同業種融合型とは異なり、飲食以外とのコラボレーション（例えば雑貨店や本屋などとのコラボレーション）である「異業種融合型」の5つのタイプである。

4 調査結果に基づく各タイプの特徴

調査協力店舗の概要は図表1のとおりである。調査協力が得られたカフェ・喫茶店には、⑤「異

業種融合型」に該当する店はなかったため、異業種融合型以外の4つのタイプを使用した分析をおこなった。次項(3)に、タイプ別にみた来店者の特徴をまとめた。

【参考文献】

Oldenburg, Ray, 1989, *The Great Good Place: Cafes, Coffee Shops, Bookstores, Bars, Hair Salons and Other Hangouts at the Heart of a Community*, Massachusetts: Da Capo Press.

(=2013, 忠平美幸訳『サードプレイス——コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』みすず書房.)

杉山大輔・白肌邦夫・小坂満隆, 2014, 「サードプレイスを包含したサービスビジネスモデルの可能性」『研究・イノベーション学会 年次学術大会講演要旨集』29: 763-9.

田中瑞季・梅崎修, 2012, 「地域コミュニティにおけるソーシャルキャピタル: 神楽坂地域の喫茶店を事例にして」『地域イノベーション 法政大学地域研究センター』5: 9-20.

図表1 調査協力店舗の概要

		店長アンケート													
来店客アンケートサンプル数	来店客アンケート	密着		常連客の割合	一人客の割合	一日の平均来店客数	開業年	テーブル席数	カウンター席数	その他席数	営業時間	飲み物	食べ物		
		性別	年齢												
フルビ サービ ス型	A	14	女性	中学生、主婦、高年齢	8	6	25	2011	24	5	9時～18時	コーヒー類・ジュース類・アルコール飲料	ケーキ・菓子類・軽食・ランチ等・一品料理		
	B	45	女性	勤め人、主婦、高年齢	7	5	10	2017	9	2	34	8時～17時	コーヒー類・ジュース類・アルコール飲料・その他の飲み物	ケーキ・菓子類・軽食・ランチ等・その他の食べ物	
	C	5	女性	主婦、高年齢	5	6		2014	10	4	6	8時～20時	コーヒー類・ジュース類・アルコール飲料	ケーキ・菓子類・軽食・ランチ等	
	D	23	女性	主婦、高年齢	4	1	80	2008	40		6	11時半～22時	アルコール飲料	ケーキ・菓子類・ランチ等・一品料理	
	E	5		勤め人				2009	48	4	4	11時～22時	アルコール飲料	ランチ等・一品料理・その他食べ物	
	F	—	女性	子供、高校生、大学生、勤め人、主婦、高年齢		2	380	2008	38	5	5	24時間	アルコール飲料・その他飲み物	ケーキ・菓子類・軽食・ランチ等・一品料理・その他の食べ物	
	G	21	女性	勤め人、主婦		1	60	2015	46		32	11時～20時	アルコール飲料・ジュース類・アルコール飲料・その他の飲み物	ケーキ・菓子類・ランチ等・一品料理	
	H	—	女性	主婦、高年齢		2	80	2013	7			10時～20時	アルコール飲料	ケーキ・菓子類・軽食	
	I	25	女性	子供、勤め人、主婦		7	4	50	2015	28	5	16	11時～20時	アルコール飲料・ジュース類・アルコール飲料・その他の飲み物	ケーキ・菓子類・ランチ等・一品料理・その他の食べ物
	J	4	女性	子供、大学生、勤め人、自営・自由業、主婦、高年齢		8	4	60	2002	14	4	1	9時～18時半	アルコール飲料・ジュース類・アルコール飲料・その他の飲み物	ケーキ・菓子類・軽食・ランチ等
	K	—	女性	勤め人		7	9	300	2004	32	13	7時～24時	アルコール飲料	ケーキ・菓子類・軽食・ランチ等	
セルフ タイプ 型	L	5													
	M	30	男性	勤め人、高年齢	3	6	300	2007	47		7時～21時半	コーヒー・ジュース類	ケーキ・菓子類・軽食・ランチ等		
	N	17													
同業種 融合型	O	5	女性	主婦	7	3	100	2015	30		9時～19時	コーヒー類・ジュース類	ケーキ・菓子類・軽食・その他の食べ物		
	P	63	女性	大学生、勤め人、主婦、高年齢	2	8	1000	1998	12	44	7時～21時	アルコール飲料	ケーキ・菓子類・軽食・ランチ等		
	Q	1	女性	子供、勤め人、自営・自由業、主婦、高年齢	5	6	40	2014	18		10時～19時	アルコール飲料	ケーキ・菓子類		
	R	—	男性	勤め人、自営・自由業、主婦	6	6	25	1999	3		1	11時～20時	アルコール飲料	ケーキ・菓子類	
	S	—	男性	勤め人		3	100	1995	45		9	9時～18時	アルコール飲料	その他の食べ物	
	T	1	女性	子供、主婦、高年齢	7	6	50	2011	6	3	4	7時半～19時	アルコール飲料	ケーキ・菓子類・軽食・ランチ等・一品料理	
	U	4													
	V	2													
コミュ ニティ 型	W	5					2006	12	4		12時～20時	アルコール飲料	ケーキ・菓子類・軽食・一品料理		
		来店客アンケート有効回収数275	男女どちらが多いですか？	「1. 子供（中学生以下）」「2. 高校生」「3. 大学生」「4. 勤め人」「5. 自営業、専業主婦（夫）」「6. 主婦（夫）」「7. リタイヤ高齢層」「8. その他」から、いくつかも○										「1. コーヒー・紅茶・日本茶・中国茶の類い」「2. ジュース・炭酸飲料」「3. アルコール飲料」「4. その他」から、いくつかも○	

(3) カフェ・喫茶店タイプ別にみた来店者の特徴

この分析では、「フルサービス型」「セルフタイプ型」「同業種融合型」「コミュニティ型」の4つのタイプ別に、各質問とのクロス集計をおこなう。ただし、コミュニティ型はサンプル数が5人と非常に少ないため、結果は参考程度に留める。

1 カフェ・喫茶店タイプ別にみた属性との関連

性別との関連をみると、コミュニティ型以外は女性の割合が高く、それぞれ50%を超えている。年齢との関連をみると、フルサービスは「20代前半(16.5%)」が最も高く、次に「30代前半(14.4%)」、「30代後半(12.2%)」と続く。セルフタイプはばらける傾向にあるが、中でも割合が高かったのは「40代前半(19.6%)」だった。同業種融合型は「50代前半(19.2%)」が最も高く、コミュニティ型は「40代前半(40.0%)」と「50代前半(40.0%)」の割合が高い。若い人はフルサービスを利用しているが、それ以外では比較的40代以上の利用者が中心となっている。

住まいとの関連をみると、同業種融合型以外は「その他(東京23区外)」の割合が最も高かった。同業種融合型は「文京区以外の東京23区」の割合が最も高く23.6%だった。文京区内でいうと、フルサービスと同業種融合型で小石川(1~5丁目)の割合が高く、それぞれ20.1%、20.8%だった。

世帯との関連をみると、フルサービスと同業種融合型は「二世帯世帯」の割合が48.6%、37.0%と最も高かった。セルフタイプは「二世帯世帯」とわずか2.1ポイント差ではあるが「一人世帯(39.1%)」の割合が最も高かった。コミュニティ型は「一世帯世帯(60.0%)」が1番高いという結果になった。

時間のゆとりとの関連は、コミュニティ型以外のタイプでは「ある程度ゆとりがある」の割合が最も高い。それぞれ2番目に割合が高いのが「あまりゆとりがない」である。コミュニティ型は「あまりゆとりがない」の割合が最も高かった(60.0%)。

2 カフェ・喫茶店タイプ別にみた利用形態

すべてのタイプで「一人が多い」の割合が最も高く、それぞれ50%を超えていた。フルサービスとセルフタイプを比較してみると、セルフタイプのほうが16.7ポイント、一人利用の割合が高かった。逆に「誰かと一緒が多い」の割合は、フルサービスのほうが13.9ポイント、セルフタイプより高かった(図表1)。

図表1 カフェタイプ別にみた利用形態

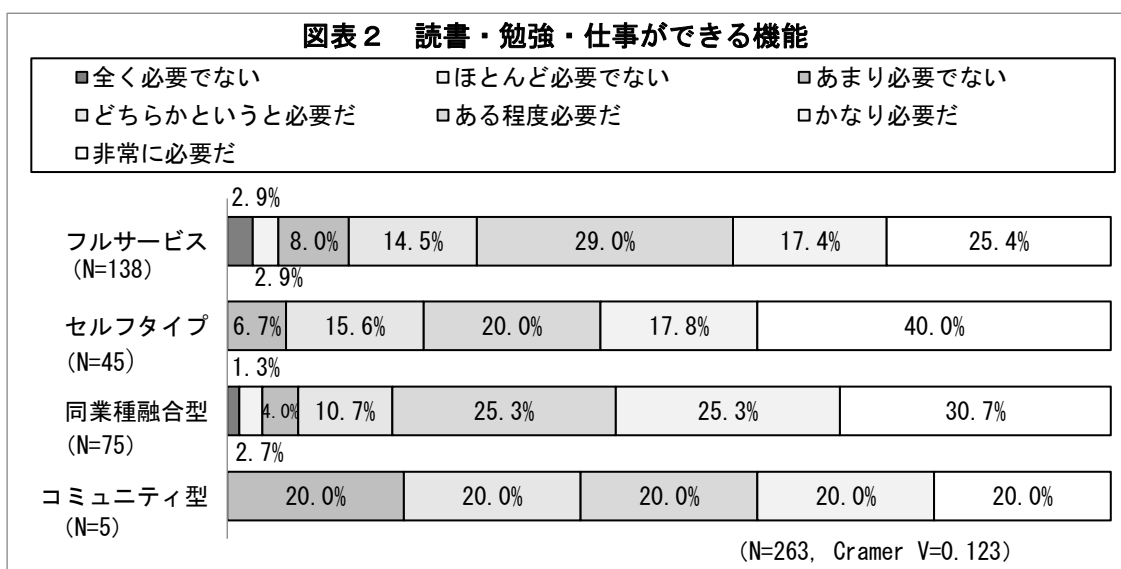
	一人が多い	どちらともいえない	誰かと一緒が多い
フルサービス (N=146)	51.4%	21.9%	26.7%
セルフタイプ (N=47)	68.1%	19.1%	12.8%
同業種融合型 (N=76)	59.2%	21.1%	19.7%
コミュニティ型 (N=5)	60.0%	20.0%	20.0%

(N=274, Cramer V=0.100)

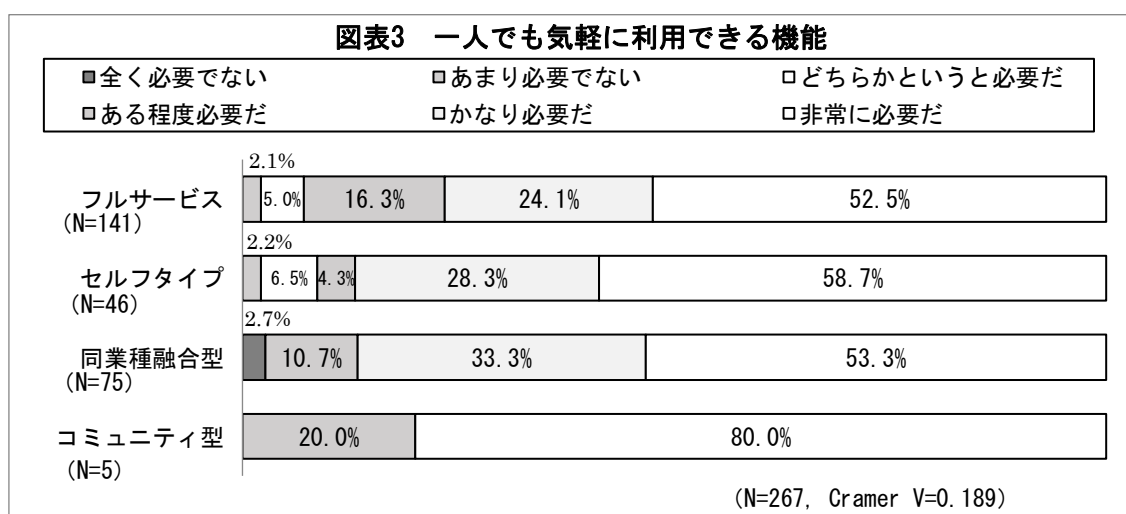
3 カフェ・喫茶店タイプ別にみた必要機能

「カフェ・喫茶店にはどのような機能が必要だと、あなたは思いますか?」と尋ね、17項目について、「非常に必要だ」から「全く必要でない」まで7段階の選択肢から、1つだけ選んで回答してもらった。

「読書・勉強・仕事ができる」という項目では、「非常に必要だ」の割合が最も高かったのがセルフタイプだ。40.0%を占めた。次に割合が高かったのが同業種融合型で30.7%、フルサービスは25.4%だった。参考までに、コミュニティ型は20.0%で最も割合が低くなった。フルサービスを受けながら読書・勉強・仕事をし、じっくり長居できる機能を必要とする人が、フルサービスタイプのカフェ・喫茶店利用客に多いことがわかる(図表2)。



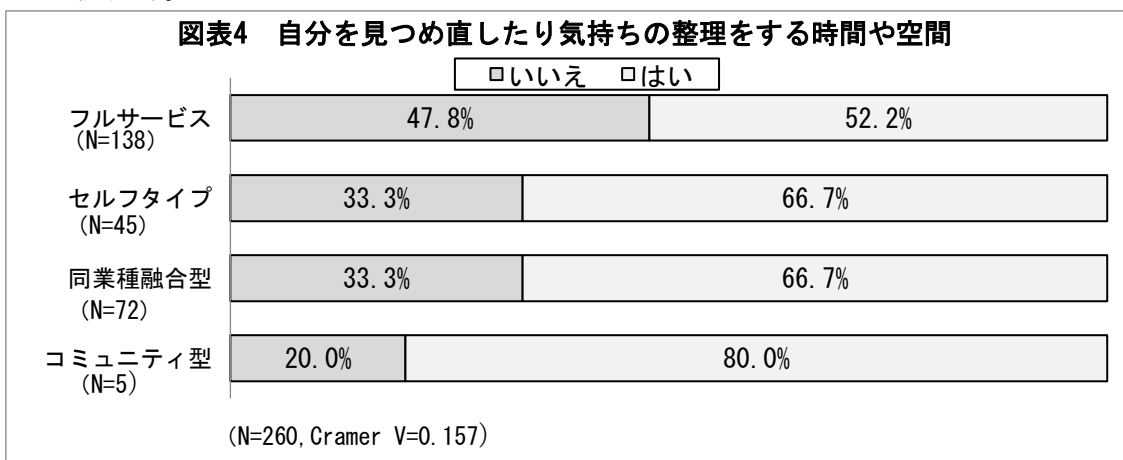
「一人でも気軽に利用できる」という項目では、どのタイプも「非常に必要だ」の割合が5割を超えた。特に高かったのは、セルフタイプの58.7%であった。フルサービスより6.2ポイント、同業種融合型より5.4ポイント高かった。フルサービスより、セルフタイプに“一人でも気軽に利用できる機能”を求めていることがわかる。参考までに、コミュニティ型は「非常に必要だ」が80.0%を占めた。ただし、「あまり必要でない」が20.0%を占めている(図表3)。



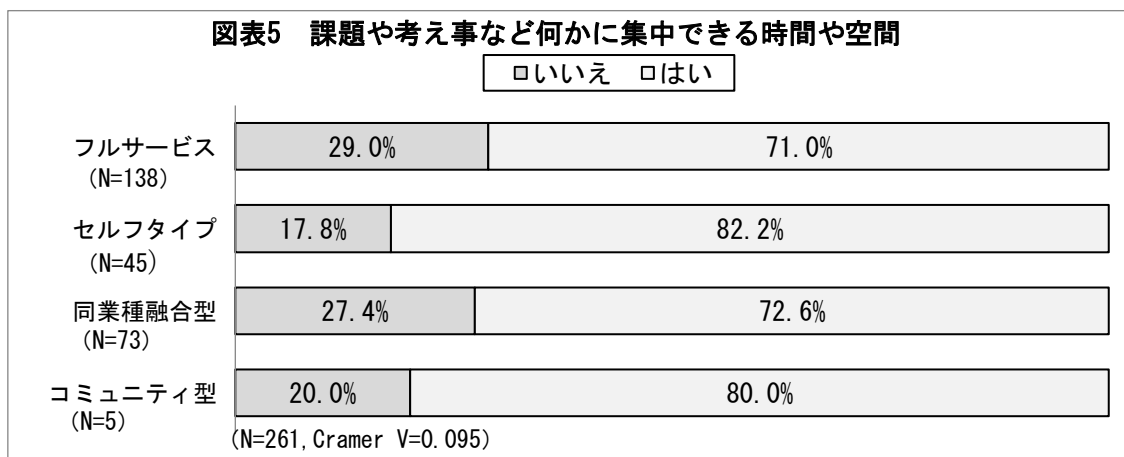
4 カフェ・喫茶店タイプ別にみた時間や空間

「あなたにとってカフェ・喫茶店は、次のことを得られる場所だと思いますか？」と尋ね、7項目に対して、「はい」「いいえ」の2択で回答してもらった。

まず、「自分を見つめ直したり気持ちの整理をする時間や空間」について、「はい」と答えた人の割合は、フルサービスでは52.2%だったが、セルフタイプと同業種融合型では66.7%となった。どのタイプでもカフェ利用者の半数以上は「自分を見つめ直したり気持ちの整理をする時間や空間」が得られる場所としてカフェを利用しているが、特に、セルフタイプと同業種融合型のカフェ・喫茶店を利用する人にその傾向が強いようだ。参考までに、コミュニティ型は「はい」が80.0%となった(図表4)。

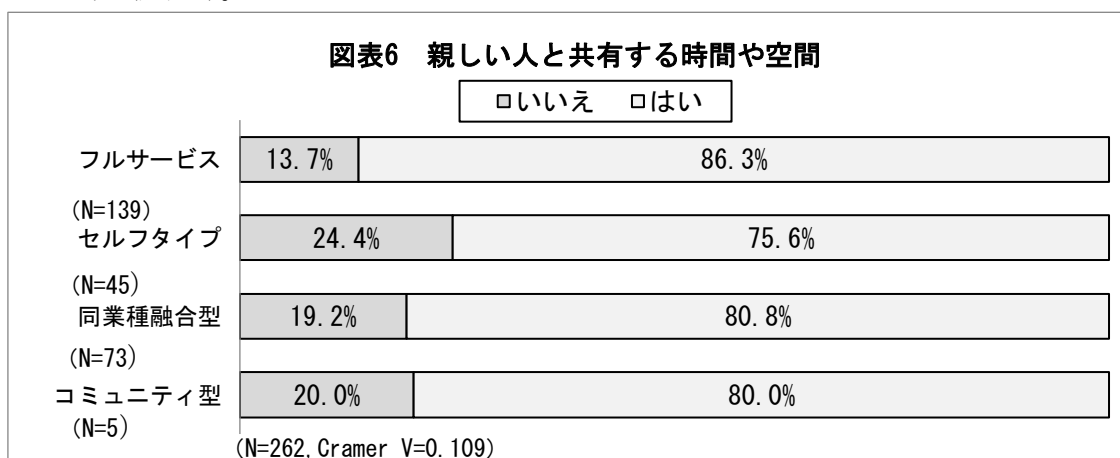


また、「課題や考え事など何かに集中できる時間や空間」については、「自分を見つめ直したり気持ちの整理をする時間や空間」以上に、全てのタイプにおいて「はい」の割合が高かった。特にセルフタイプ利用者では82.2%が「はい」と答え、何かに集中できる場所としてカフェ・喫茶店を利用する人が大半を占めていることがわかった(図表5)。



「親しい人と共有する時間や空間」についても、「何かに集中できる」と同様、全てのタイプにおいて「はい」の割合が大きかった。ただし、「何かに集中できる」についてはセルフタイプの利用者で「はい」の割合が最も高かったが、「親しい人と共有する」については、フルサービスの利用者が最も高くなっている。セルフタイプに比べて、フルサービスのほうが複数人で利用するには便利な

のだろう（図表6）。



5 まとめ

フルサービス型は20代前半から30代前半の人に多く使われており、他のカフェ・喫茶店タイプより誰かと一緒に利用される機会が多い。また、「親しい人と共有する時間や空間」を得られる場所だと思われる傾向にある。「一人でも気軽に利用できる」機能を「非常に必要だ」と答えている人の割合は、セルフタイプや同業種融合型に比べて低く、「読書・勉強・仕事ができる」機能を「非常に必要だ」と答えている人の割合も、セルフタイプや同業種融合型に比べて低い。以上のことから、フルサービスは、課題や考え事よりも友人との会話ができる時間や空間であると考えられる。

セルフタイプは、利用者の年齢がばらける傾向にあるが、40代前半が多く、一人で利用している割合が高い。他のタイプは「週1~2回」の利用頻度が最も高いのに比べて、セルフタイプは「週3~4回」の利用頻度が最も高く、4つのタイプの中で利用頻度が高いことがわかる。さらに「読書・勉強・仕事ができる」機能を必要とし、「課題や考え事など何かに集中できる時間や空間」を得られる場所と捉えている人が多いことから、セルフタイプは一人で何か作業をしたいときによく利用されているといえる。

同業種融合型は、50代前半の利用率が最も高く、他の質問の分析結果をみるとフルサービスと似た傾向にある。しかし、フルサービスに比べて「自分を見つめ直したり気持ちの整理をする時間や空間」を得られる場所と捉えている割合は高く、「課題や考え事など何かに集中できる時間や空間」を得られる場所と捉えている割合はそれほど高くない。このことから、同業種融合型では作業スペースとして店を利用するのではなく、好きなパンやケーキを食べながら喫茶を楽しみ、落ち着いた時間を持つとする傾向にあるのではないかと考える。

コミュニティ型は、40代前半と50代前半に多く利用されている。「一人でも気軽に利用できる機能」を必要としている割合がとて高い。また、他人との交流ができる点も特徴である。以上のことから、コミュニティ型は一人利用しやすく、人々との交流ができることを重要視された空間だといえる。しかし、このタイプに該当したカフェ・喫茶店は一店舗でサンプル数も少ないことから参考程度に留める。

なお、利用時間については、どのタイプでも60分、120分が多く大きな差はみられなかった。

資料編

- (1) 大学生アンケート調査票（単純集計付き）
- (2) 来店者アンケート調査票（単純集計付き）
- (3) 店長アンケート調査票

大学生アンケート（跡見データのみの単純集計結果 N=446）



「なぜカフェ・喫茶店を利用するのか？」

調査協力へのお願い

私たちは、跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部の社会調査実習授業の一環として、文京区茗荷谷エリアを調査対象地域とし、「なぜカフェ・喫茶店を利用するのか？」をテーマに調査を企画しました。現在、カフェ・喫茶店は様々なタイプのものであり、利用者の目的や利用実態も様々です。調査では、カフェ・喫茶店を営む側とその利用者、地域の大学に通う大学生などを対象に調査し、茗荷谷エリアにおけるカフェのあり方について考察をおこないます。調査結果は報告書にまとめる予定です。

そこで、大学生の皆様にも、簡単なアンケートにご協力いただきたく、お願いする次第です。カフェ・喫茶店を利用したことのない方も、是非、ご協力ください。

結果はすべて数字に直し、統計数字としてのみ処理しますので、ご回答者本人を特定できる情報は一切含まれません。ご回答いただいた用紙がそのまま外に出ることもありません。また、授業の成績評価とも無関係です。その点ご心配なく、アンケートにご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

2017年10月

跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部
社会調査実習履修者一同
(担当教員・佐野)

I. カフェ・喫茶店の利用の仕方についてうかがいます。

Q1～Q5は、「利用したことがない」人(3人)を欠損値として処理。NAに含めた。

Q1. あなたは月に何回くらいカフェ・喫茶店を利用しますか？（テイクアウトを除く）NA=5

- | | | |
|---------------|-------------------|------------------|
| 1. ほぼ毎日 0.5 | 4. 2週間に1回程度 26.1 | 7. 減多に利用しない 15.4 |
| 2. 週3～4回 2.7 | 5. 月に1回程度 28.8 | X. 利用したことがない |
| 3. 週1～2回 17.9 | 6. 2～3か月に1回程度 8.6 | |

Q2. カフェ・喫茶店を利用するときは、「一人」が多いですか？ 「誰かと一緒」が多いですか？NA=4

- | | | | |
|---------------|-------------------|------------------|--------------|
| 1. 一人が多い 26.7 | 2. どちらともいえない 27.6 | 3. 誰かと一緒が多い 45.7 | X. 利用したことがない |
|---------------|-------------------|------------------|--------------|

Q3. あなたはカフェ・喫茶店で、1回に、何時間くらい、滞在しますか？NA=7

(一人での利用、誰かと一緒の利用など、場合によって大きく異なる時は、前の質問Q2を想定してお答えください。)

15分～360分、平均値83分、中央値60分、最頻値60分、標準偏差43分

X. 利用したことがない

Q4. あなたはカフェ・喫茶店で、1回に、いくら程度、使いますか？（テイクアウトを除く）NA=4

250円～3000円、平均値802円、中央値700円、最頻値1000円、標準偏差330円

X. 利用したことがない

Q5. あなたは、どこにあるカフェ・喫茶店を利用することが多いですか？（いくつでも○）NA=3

- | | | |
|--------------|---------------|--------------|
| 1. 駅近く 74.9 | 4. 商業施設内 35.7 | X. 利用したことがない |
| 2. 自宅近く 16.0 | 5. その他 4.3 | |
| 3. 学校近く 14.9 | (具体的に) | |

ここからの質問はすべて、カフェ・喫茶店を利用したことがない方もお答えください

Q6. (1) カフェ・喫茶店にはどのような機能が必要だと、あなたは思いますか？ 次の(A)～(Q)それぞれについて、必要だと思う程度をお答えください。(各行に1つだけ○)

	7 非常に必要だ	6 かなり必要だ	5 ある程度必要だ	4 どちらかとい うと必要だ	3 あまり必要で ない	2 ほとんど必要 でない	1 全く必要でな い
(A) 美味しい飲み物がある NA=4	60.4	24.9	12.0	2.3	0	0.5	0
(B) 美味しい食べ物がある(菓子、軽食を含む) NA=4	43.7	26.9	21.9	5.7	0.2	1.6	0
(C) 空腹を満たすことができる NA=4	19.9	21.7	33.0	16.7	7.5	0.9	0.2
(D) のどの渇きをいやすことができる NA=3	38.1	29.3	24.4	6.1	1.4	0.7	0
(E) 座れる場所がある NA=3	76.7	18.7	3.2	1.1	0	0.2	0
(F) 時間をつぶすことができる NA=3	65.7	23.3	8.1	1.8	0.9	0.2	0
(G) 待ち合わせに利用することができる NA=5	26.8	17.0	23.8	16.6	10.2	2.7	2.9
(H) おしゃべり・打ち合わせに使える NA=7	43.5	28.9	17.1	6.6	3.2	0.5	0.2
(I) 長時間居ることができる NA=5	50.1	25.4	16.1	6.1	1.1	0.7	0.5
(J) 読書・勉強・仕事ができる NA=4	38.7	22.9	18.8	8.4	6.8	1.6	2.9
(K) 一人でも気軽に利用できる NA=7	61.7	23.9	9.8	3.2	0.5	0.2	0.7
(L) 店主・店員との交流がある NA=4	4.1	5.7	12.0	22.2	29.4	11.5	15.2
(M) 店内のイベントを介して客同士の交流がある NA=4	2.7	5.4	9.0	14.3	30.5	16.1	21.9
(N) 地域の情報が得られる NA=5	3.9	5.7	9.3	18.4	31.7	11.1	20.0
(O) 写真映えする(店の内外、飲み物・食べ物) NA=6	14.5	12.7	21.1	21.6	15.9	5.5	8.6
(P) 話題性がある NA=5	12.5	16.3	23.4	20.0	15.2	5.7	7.0
(Q) 店の外観や内装がおしゃれである NA=4	23.3	25.3	26.5	15.4	4.1	2.9	2.5

(2) カフェ・喫茶店で飲み物（アルコール類を除く）を頼むとしたら、いくらまでなら出してもいいと思いますか？NA=16

250 円～5000 円，平均値 836 円，中央値 700 円，最頻値 1000 円，標準偏差 455 円

II. 普段の生活で感じている、あなたのお気持ちやお考えをうかがいます。

Q7. (A)～(G)それぞれについて、以下の質問 (1) (2) にお答えください。

(1) ふだんの生活のなかで、どの程度、必要ですか？

	7 非常に必要だ	6 かなり必要だ	5 ある程度必要だ	4 どちらかという と必要だ	3 あまり必要でない	2 ほとんど必要でない	1 全く必要でない
(A) ゆっくり休息しリラックスできる時間や空間 NA=12	53.2	27.0	15.9	3.0	0.9	0	0
(B) 自分を見つめ直したり気持ちの整理をする時間や空間 NA=13	32.6	22.9	27.9	10.4	5.1	0.9	0.2
(C) 課題や考え事など何かに集中できる時間や空間 NA=13	39.3	29.8	21.7	6.5	2.3	0	0.5
(D) 親しい人と共有する時間や空間 NA=12	35.5	28.1	27.4	6.7	1.6	0.5	0.2
(E) 気分転換できる時間や空間 NA=16	42.1	28.1	22.3	4.7	2.1	0.2	0.5
(F) 日常性から解放される時間や空間 NA=13	37.2	23.6	24.5	10.2	3.0	0.9	0.7
(G) 普段の自分とは違う別の自分を表現できる時間や空間 NA=14	19.4	14.4	26.9	18.1	11.8	6.5	3.0

(2) ふだんの生活のなかで、どの程度、確保できていると思いますか？

	4 確保できている	3 ある程度確保できている	2 どちらかという と確保できている	1 確保できていない
(A) ゆっくり休息しリラックスできる時間や空間 NA=130	19.6	50.6	24.4	5.4
(B) 自分を見つめ直したり気持ちの整理をする時間や空間 NA=130	12.3	39.2	35.8	12.7
(C) 課題や考え事など何かに集中できる時間や空間 NA=132	14.0	42.7	31.5	11.8
(D) 親しい人と共有する時間や空間 NA=130	20.6	53.5	23.1	2.8
(E) 気分転換できる時間や空間 NA=132	18.5	44.9	29.9	6.7
(F) 日常性から解放される時間や空間 NA=132	12.7	34.7	35.0	17.5
(G) 普段の自分とは違う別の自分を表現できる時間や空間 NA=130	9.2	25.9	31.3	33.5

Q8. (1) あなたにとって、次の(A)～(G)を得られる場所は、どのようなところですか？例として、次の26の場所を挙げます。この中から**3つまで**選んで(A)～(G)に、数字を記入してください。具体的な場所についてのコメントを加えていただくと助かります。「26.その他」を選んだ方も、具体的な場所を教えてください。

1. 自然の豊かな静かな場所	14. スポーツ施設
2. 旅先（観光地）	15. 理美容室
3. 公園	16. 書店
4. 風景のきれいな場所	17. 図書館
5. テーマパーク、遊園地	18. 大学
6. 都会の雑踏	19. トイレ
7. 散歩道、通りなど	20. お風呂
8. ショッピングモールなど商業施設	21. 自宅
9. 居酒屋	22. 自分だけの部屋
10. カフェ・喫茶店	23. 仲の良い友人の家
11. ゲームセンター、カラオケなど娯楽施設	24. バスや電車などの公共の乗り物
12. 映画館	25. マイカー
13. 一人になれる自分だけの場所	26. その他
	27. なし

(A) ゆっくり休息しリラックスできる場所	調査票最後に別表として掲載 NA=37
(B) 自分を見つめ直したり気持ちの整理をする場所	調査票最後に別表として掲載 NA=40
(C) 課題や考え事など何かに集中できる場所	調査票最後に別表として掲載 NA=44
(D) 親しい人と時間や空間を共有する場所	調査票最後に別表として掲載 NA=40
(E) 気分転換できる場所	調査票最後に別表として掲載 NA=39
(F) 日常性から解放される場所	調査票最後に別表として掲載 NA=37
(G) 普段の自分とは違う別の自分を表現できる場所	調査票最後に別表として掲載 NA=51

(2) 上記質問とダブりますが、改めて伺います。カフェ・喫茶店は、(A)～(G)を得られる場所だと思いませんか？ [カフェ・喫茶店を利用したことがない方も、お答えください]

(A) ゆっくり休息しリラックスできる NA=20	1. はい 87.6	2. いいえ 12.4
(B) 自分を見つめ直したり気持ちの整理をする NA=19	1. はい 51.8	2. いいえ 48.2
(C) 課題や考え事など何かに集中できる NA=19	1. はい 75.9	2. いいえ 24.1
(D) 親しい人と時間や空間を共有する NA=20	1. はい 93.2	2. いいえ 6.8
(E) 気分転換できる NA=20	1. はい 74.6	2. いいえ 25.4
(F) 日常性から解放される NA=19	1. はい 39.6	2. いいえ 60.4
(G) 普段の自分とは違う別の自分を表現できる NA=19	1. はい 18.5	2. いいえ 81.5

Q9. あなたは日頃の生活の中で、休んだり好きなことをしたりする時間のゆとりがありますか？
それとも学業やアルバイト・家の手伝いなどに精一杯で、時間のゆとりがありませんか？

NA=43

- | | |
|---------------|------|
| 1. かなりゆとりがある | 9.7 |
| 2. ある程度ゆとりがある | 51.1 |
| 3. あまりゆとりがない | 30.0 |
| 4. ほとんどゆとりがない | 9.2 |

Q10. あなたが生活の中で最もお金を使うのは何ですか？2つまで選んで○をつけてください。

NA=33

- | | | | | | |
|-------------|------|-------------|------|------------|------|
| 1. 食べ物・飲み物 | 45.3 | 5. レジャー | 6.8 | 9. 通信費 | 1.0 |
| 2. 外食 | 18.6 | 6. 健康・美容 | 9.4 | 10. 交通費 | 10.4 |
| 3. 衣料品・服飾雑貨 | 33.9 | 7. 付き合い・交際費 | 19.6 | 11. その他() | 1.5 |
| 4. 趣味 | 32.4 | 8. 勉強 | 0.2 | | |

Q11. あなたは日頃の生活の中で、どの程度充実感を感じていますか？ NA=43

- | | |
|-------------------|------|
| 1. 十分感じている | 21.1 |
| 2. まあ感じている | 65.8 |
| 3. あまり感じていない | 11.4 |
| 4. ほとんど（全く）感じていない | 1.7 |

Ⅲ. あなたご自身についてお伺いします。(あてはまる番号に1つだけ○)

FQ1. 性別についてお伺いします。 NA=40

- | | | | |
|-------|-----|-------|------|
| 1. 男性 | 0.2 | 2. 女性 | 99.8 |
|-------|-----|-------|------|

FQ2. 現在の暮らし方を教えてください。 NA=40

- | | | | |
|----------------------------|-----|-------------|------|
| 1. 一人暮らし | 7.9 | 4. 家族と同居 | 88.2 |
| 2. 友人・知人と同居（ハウスシェア、ルームシェア） | 0.2 | 5. その他（具体的に | 0.5 |
| 3. 寮暮らし | 3.2 | | |

FQ3. 現在、アルバイトをしていますか？ NA=40

- | | | | | | |
|----------|------|------------|-----|----------|------|
| 1. ほぼ毎日 | 2.5 | 4. 週1回程度 | 4.9 | 7. していない | 11.3 |
| 2. 週4～5回 | 19.5 | 5. たまにする程度 | 2.7 | | |
| 3. 週2～3回 | 58.4 | 6. ほとんどしない | 0.7 | | |

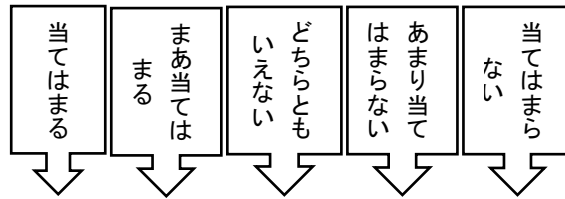
FQ4. 一か月にあなたが自由に使えるお金はいくら位ありますか？ NA=57

1千円～50万円，平均値4万4147円，中央値4万円，最頻値5万円，標準偏差3万8907円

FQ5. 必要ときに頼りにできる家族や友人は何人くらいいますか？ NA=51

0人～100人，平均値7人，中央値5人，最頻値5人，標準偏差6人

FAQ6. 以下のそれぞれの項目は、あなた自身にどのくらい当てはまりますか？



	当てはまる	まあまあ	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない	NA
(1) 活動的な……………	5 16.9	4 34.2	3 25.6	2 16.9	1 6.5	NA=43
(2) 想像力に富んだ……	5 18.9	4 32.8	3 26.4	2 19.2	1 2.7	NA=44
(3) 成り行きまかせ……	5 25.3	4 45.4	3 15.6	2 9.9	1 3.7	NA=43
(4) くよくよしない……	5 10.4	4 23.1	3 29.0	2 25.1	1 12.4	NA=43
(5) 温和な……………	5 21.3	4 42.9	3 24.8	2 10.2	1 0.7	NA=43
(6) 几帳面……………	5 12.9	4 31.3	3 25.1	2 23.6	1 7.2	NA=43
(7) 社交的……………	5 13.4	4 30.8	3 28.6	2 19.7	1 7.5	NA=44
(8) 不安になりやすい…	5 34.2	4 35.7	3 15.4	2 9.4	1 5.2	NA=43
(9) 興味の広い…………	5 26.6	4 36.8	3 20.4	2 13.4	1 2.7	NA=44
(10) 無口な……………	5 4.0	4 27.0	3 23.6	2 25.6	1 19.9	NA=43
(11) 臨機応変な…………	5 8.4	4 30.0	3 38.7	2 18.1	1 4.7	NA=43
(12) 緊張しやすい……	5 39.2	4 36.2	3 15.6	2 5.5	1 3.5	NA=43
(13) 短気……………	5 12.7	4 28.5	3 25.1	2 21.6	1 12.2	NA=43
(14) 独立した……………	5 7.7	4 21.8	3 33.5	2 26.1	1 10.9	NA=43
(15) 親切な……………	5 10.9	4 39.7	3 41.7	2 6.0	1 1.7	NA=43
(16) 地味な……………	5 6.7	4 27.3	3 40.9	2 18.1	1 6.9	NA=43
(17) 飽きっぽい……	5 26.1	4 40.5	3 19.2	2 12.2	1 2.0	NA=44
(18) 怒りっぽい……	5 10.9	4 27.8	3 28.5	2 20.8	1 11.9	NA=43
(19) 傷つきやすい……	5 24.3	4 36.5	3 21.8	2 12.9	1 4.5	NA=43
(20) 勤勉な……………	5 5.0	4 17.1	3 31.3	2 31.3	1 15.4	NA=43

FAQ7. **最後に……**、お気に入りのカフェ・喫茶店があれば、教えてください（わかる範囲で名前と場所を書いてください）。お気に入りがない方、あるいは、カフェ・喫茶店を利用したことがない方は、「どのようなカフェがあればいいな」と思いますか？ 自由にお書きください。

ご協力大変ありがとうございました。



Q8(1) あなたにとって、次の(A)～(G)を得られる場所は、どのようなところですか？(3つまで○)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	自然の豊かな静かな場所	旅先(観光地)	公園	風景のきれいな場所	テーマパーク、遊園地	都会の雑踏	散歩道、通りなど	ショッピングモールなど商業施設	居酒屋	カフェ・喫茶店
(A) ゆっくり休息しリラックスできる場所	25.9	11.7	9.5	11.7	0.2	0.0	4.4	1.2	0.7	21.5
(B) 自分を見つめ直したり気持ちの整理をする場所	13.5	11.1	7.6	9.9	0.5	0.7	9.6	1.5	0.5	9.9
(C) 課題や考え事など何かに集中できる場所	2.7	1.5	0.2	0.7	1.0	0.5	2.7	1.7	0.2	31.6
(D) 親しい人と時間や空間を共有する場所	2.0	22.9	4.9	4.2	29.6	1.2	1.2	27.3	24.9	43.6
(E) 気分転換できる場所	18.9	30.2	5.4	13.8	23.1	2.0	8.4	18.7	5.9	5.7
(F) 日常性から解放される場所	21.0	44.3	2.7	17.6	43.5	0.7	2.0	5.9	3.2	1.2
(G) 普段の自分とは違う別の自分を表現できる場所	3.3	13.2	1.8	3.3	17.2	1.8	1.8	2.8	6.6	1.0
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	ゲームセンター、カラオケなど娯楽施設	映画館	一人になれる自分だけの場所	スポーツ施設	理美容室	書店	図書館	大学	トイレ	お風呂
(A) ゆっくり休息しリラックスできる場所	1.0	5.6	25.2	0.5	1.2	2.0	3.4	0.2	7.8	22.0
(B) 自分を見つめ直したり気持ちの整理をする場所	0.2	2.2	25.4	1.0	0.2	1.7	4.4	0.7	6.4	26.8
(C) 課題や考え事など何かに集中できる場所	0.2	0.7	16.4	0.2	0.0	2.5	34.8	18.4	3.5	8.2
(D) 親しい人と時間や空間を共有する場所	19.7	4.2	1.0	1.0	0.0	0.2	1.0	12.8	0.2	0.2
(E) 気分転換できる場所	22.6	19.4	5.7	5.9	7.9	3.4	1.5	0.5	1.2	8.1
(F) 日常性から解放される場所	11.0	18.6	4.9	3.7	2.2	1.7	1.7	0.2	0.5	2.7
(G) 普段の自分とは違う別の自分を表現できる場所	17.0	2.8	6.8	7.6	9.6	0.8	1.0	3.0	1.3	3.0
	21	22	23	24	25	26	27			
	自宅	自分だけの部屋	仲の良い友人の家	バスや電車などの公共の乗り物	マイカー	その他	なし			
(A) ゆっくり休息しリラックスできる場所	40.8	34.7	2.2	2.0	0.5	1.5	0.0			
(B) 自分を見つめ直したり気持ちの整理をする場所	33.7	38.9	0.7	4.7	1.0	0.5	0.7			
(C) 課題や考え事など何かに集中できる場所	39.3	37.6	0.2	4.2	0.5	1.2	0.2			
(D) 親しい人と時間や空間を共有する場所	6.2	2.7	16.5	2.5	1.2	2.2	1.2			
(E) 気分転換できる場所	5.2	5.7	0.7	1.7	1.0	1.7	0.2			
(F) 日常性から解放される場所	7.1	3.9	1.2	0.2	0.5	4.2	0.5			
(G) 普段の自分とは違う別の自分を表現できる場所	7.8	8.1	3.5	0.8	1.3	6.8	21.3			

来店者アンケート N=275



「なぜカフェ・喫茶店を利用するのか？」

調査協力へのお願い

私たちは、跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部の社会調査実習授業の一環として、文京区茗荷谷エリアを調査対象地域とし、「なぜカフェ・喫茶店を利用するのか？」をテーマに調査を企画しました。現在、カフェ・喫茶店は様々なタイプのものであり、利用者の目的や利用実態も様々です。調査では、カフェ・喫茶店を営む側とその利用者、地域の大学に通う大学生などを対象に調査し、茗荷谷エリアにおけるカフェのあり方について考察をおこないます。調査結果は報告書にまとめる予定です。

そこで、カフェ・喫茶店を利用されている皆様に、簡単なアンケートにご協力いただきたく、お願いする次第です。結果はすべて数字に直し、統計数字としてのみ処理しますので、ご回答者本人を特定できる情報は一切含まれません。ご回答いただいた用紙がそのまま外に出ることも一切ありません。その点ご心配なく、アンケートにご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

なお、ご回答後の調査票は、レジ横の回収ボックスにお入れください。よろしくお願い致します。

2017年10月

跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部
社会調査実習履修者一同
(担当教員・佐野)

I. カフェ・喫茶店の利用の仕方についてうかがいます。

Q1. あなたは月に何回くらいカフェ・喫茶店を利用しますか？（テイクアウトを除く）NA=2

1. ほぼ毎日	13.6	4. 2週間に1回程度	17.2	7. 滅多に利用しない	4.0
2. 週3～4回	22.0	5. 月に1回程度	9.5		
3. 週1～2回	30.4	6. 2～3か月に1回程度	3.3		

Q2. カフェ・喫茶店を利用するときは、「一人」が多いですか？ 「誰かと一緒」が多いですか？NA=1

1. 一人が多い	56.6	2. どちらともいえない	21.2	3. 誰かと一緒が多い	22.3
----------	------	--------------	------	-------------	------

Q3. あなたはカフェ・喫茶店で、1回に、何時間くらい、滞在しますか？NA=3

(一人での利用、誰かと一緒の利用など、場合によって大きく異なる時は、前の質問Q2を想定してお答えください。)

15分～240分, 平均値 72分, 中央値 60分, 最頻値 60分, 標準偏差 43分

Q4. あなたはカフェ・喫茶店で、1回に、いくら程度、使いますか？（テイクアウトを除く）NA=3

200円～2000円, 平均値 723円, 中央値 600円, 最頻値 500円, 標準偏差 342円

円

Q5. (1) カフェ・喫茶店にはどのような機能が必要だと、あなたは思いますか？ 次の(a)～(q)それぞれについて、必要だと思う程度をお答えください。(各行に1つだけ○)

	7 非常に 必要だ	6 かなり 必要だ	5 ある 程度 必要だ	4 どちら かとい うと 必要だ	3 あまり 必要で ない	2 ほとん ど必要 でない	1 全く 必要で ない
(a) 美味しい飲み物がある NA=8	34.8	32.6	24.7	6.0	1.9	0	0
(b) 美味しい食べ物がある (菓子、軽食を含む) NA=10	20.8	27.2	34.3	10.2	4.5	2.3	0.8
(c) 空腹を満たすことができる NA=9	6.8	9.0	38.0	21.4	15.8	5.3	3.8
(d) のどの渇きをいやすことができる NA=12	22.1	30.4	26.6	13.3	5.3	1.1	1.1
(e) 座れる場所がある NA=11	73.9	18.2	5.7	1.5	0.4	0	0.4
(f) 時間をつぶすことができる NA=10	43.8	24.2	16.6	10.9	2.6	0.4	1.5
(g) 待ち合わせに利用することができる NA=10	19.6	20.8	28.7	16.2	10.2	1.5	3.0
(h) おしゃべり・打ち合わせに使える NA=10	27.2	23.8	26.4	12.8	5.3	2.3	2.3
(i) 長時間居ることができる NA=10	27.2	23.4	27.5	11.3	9.4	0.4	0.8
(j) 読書・勉強・仕事ができる NA=12	29.3	19.8	26.2	13.7	6.8	2.3	1.9
(k) 一人でも気軽に利用できる NA=8	54.3	27.0	12.4	3.7	1.9	0	0.7
(l) 店主・店員との交流がある NA=10	6.0	5.7	19.6	14.3	31.3	11.7	11.3
(m) 店内のイベントを介して客同士の交流がある NA=11	3.0	2.7	7.6	12.1	34.8	17.8	22.0
(n) 地域の情報が得られる NA=16	2.7	3.9	15.1	21.6	27.0	14.3	15.4
(o) 写真映えする (店の内外、飲み物・食べ物) NA=13	3.4	8.0	13.0	14.9	25.6	13.4	21.8
(p) 話題性がある NA=12	3.8	5.7	12.9	15.2	28.1	14.8	19.4
(q) 店の外観や内装がおしゃれである NA=11	9.8	17.4	31.8	21.2	11.7	4.5	3.4

(2) カフェ・喫茶店で飲み物 (アルコール類を除く) を頼む場合、いくらまでなら出してもいいと思いますか？NA=21

250 円～3000 円, 平均値 881 円, 中央値 700 円, 最頻値 500 円, 標準偏差 528 円

円

II. 普段の生活で感じている、あなたのお気持ちやお考えをうかがいます。

Q6. (A)～(G)それぞれについて、以下の質問 (1) (2) にお答えください。

(1) ふだんの生活のなかで、どの程度、必要ですか？

(2) ふだんの生活のなかで、どの程度、確保できていると思いますか？

NA… (1)のNA, (2)のNA	(1)							(2)				
	7 非常に必要だ	6 かなり必要だ	5 ある程度必要だ	4 どちらかというと必要だ	3 あまり必要でない	2 ほとんど必要でない	1 全く必要でない	4 確保できている	3 ある程度確保できている	2 どちらかというと確保できている	1 確保できていない	
(A) ゆっくり休息しリラックスできる時間や空間 NA=14, NA=91	42.9	26.8	24.5	5.4	0.4	0	0	16.8	44.0	25.5	13.6	
(B) 自分を見つめ直したり気持ちの整理をする時間や空間 NA=14, NA=91	33.0	21.5	28.4	11.9	3.4	0.8	1.1	15.8	33.2	30.4	20.7	
(C) 課題や考え事など何かに集中できる時間や空間 NA=14, NA=91	36.4	23.0	25.7	11.1	1.9	1.1	0.8	16.3	39.7	28.3	15.8	
(D) 親しい人と共有する時間や空間 NA=16, NA=92	25.5	24.3	31.3	14.3	3.5	0.4	0.8	20.8	44.3	22.4	12.6	
(E) 気分転換できる時間や空間 NA=15, NA=92	33.5	24.2	27.3	12.3	1.9	0	0.8	16.4	40.4	29.5	13.7	
(F) 日常性から解放される時間や空間 NA=15, NA=92	29.2	18.5	26.2	16.2	6.9	1.5	1.5	12.6	30.6	28.4	28.4	
(G) 普段の自分とは違う別の自分を表現できる時間や空間 NA=16, NA=93	12.4	10.0	22.8	20.1	20.5	7.7	6.6	6.6	14.3	30.2	48.9	

Q7. あなたにとって、カフェ・喫茶店は、次の(A)～(G)を得られる場所だと思いますか？

(A) ゆっくり休息しリラックスできる時間や空間 NA=15	1. はい 92.7	2. いいえ 7.3
(B) 自分を見つめ直したり気持ちの整理をする時間や空間 NA=15	1. はい 59.2	2. いいえ 40.8
(C) 課題や考え事など何かに集中できる時間や空間 NA=14	1. はい 73.6	2. いいえ 26.4

(D) 親しい人と共有する時間や空間 NA=13	1. はい 82.8	2. いいえ 17.2
(E) 気分転換できる時間や空間 NA=14	1. はい 85.4	2. いいえ 14.6
(F) 日常性から解放される時間や空間 NA=15	1. はい 51.9	2. いいえ 48.1
(G) 普段の自分とは違う別の自分を表現できる時間や空間 NA=16	1. はい 22.8	2. いいえ 77.2

Ⅲ. あなたご自身についてお伺いします。(あてはまる番号に1つだけ○)

FQ 1. 性別についてお伺いします。NA=11

1. 男性 36.4	2. 女性 63.6
------------	------------

FQ 2. 年齢についてお伺いします。NA=12

1. 10代前半まで 1.1	5. 30代前半 12.9	9. 50代前半 12.2	13. 70代以上 7.6
2. 10代後半 3.8	6. 30代後半 9.1	10. 50代後半 6.1	
3. 20代前半 12.9	7. 40代前半 11.8	11. 60代前半 4.6	
4. 20代後半 5.7	8. 40代後半 8.7	12. 60代後半 3.4	

FQ 3. どちらにお住まいですか？NA=13

1. 大塚 (1~6丁目) 11.1	5. 1~4以外の文京区 9.5
2. 小日向 (1~4丁目) 5.7	6. 文京区以外の東京23区 22.1
3. 小石川 (1~5丁目) 17.9	7. その他(具体的に) 28.6
4. 音羽 (1~2丁目) 5.0	

FQ 4. お宅はつぎのうちのどれにあてはまりますか？NA=14

1. 一人世帯 28.0
2. 一世代世帯(夫婦だけ) 19.9
3. 二世帯世帯(親と子) 46.7
4. 三世帯世帯(親と子と孫) 2.7
5. その他(具体的に) 2.7

FQ 5. あなたは日頃の生活の中で、休んだり好きなことをしたりする時間のゆとりがありますか？それとも仕事や家事・学業などに精一杯で、時間のゆとりがありませんか？NA=14

1. かなりゆとりがある 11.5
2. ある程度ゆとりがある 46.7
3. あまりゆとりがない 29.5
4. ほとんどゆとりがない 12.3

お忙しいところ、ご協力大変ありがとうございました。



店長アンケート

店長さんにうかがいます。

来店されるお客様の層や、お店の内外装の工夫、営業時間などについて、教えてください。

Q 1. 来店されるお客様について教えてください。

(a) 男女どちらが多いですか？（1つだけ○）

- | | |
|----------|----------|
| 1. 男の方が多 | 2. 女の方が多 |
|----------|----------|

(b) お客様には、どのような方が多くいらっしゃいますか？（いくつでも○）

- | | | |
|--------------|---------------|------------|
| 1. 子供（中学生以下） | 4. 勤め人 | 7. リタイヤ高齢層 |
| 2. 高校生 | 5. 自営業、専門・自由業 | 8. その他（ ） |
| 3. 大学生 | 6. 主婦（夫） | |

(c) お客様に多いのは、どのような方ですか？（いくつでも○）

- | | |
|------------------------|---|
| 1. 近くに住む人 | |
| 2. 近くに仕事場や学校がある人 | |
| 3. 仕事や用事、遊びが目的で、近くに来た人 | |
| 4. その他（具体的に | ） |

(d) 常連客は多いですか？

全体の（ ）割くらい

(e) 一人客は多いですか？

全体の（ ）割くらい

(f) 一日あたりのお客様の数を教えていただけますか？

平均すると（ ）人くらい

Q 2. お店の内装や外装にこだわりはありますか？ 内装や外装のデザイン・コンセプトがあれば教えてください。

--

Q 3. 営業形態について教えてください。

(a) お店を開いたのは何年ですか？

() 年

(b) 総席数を教えてください。

テーブル席 () 席、 **カウンター席** () 席、 **その他** () 席

(c) 営業時間を教えてください。

() 時～ () 時

(d) メニューについて、提供されているものを教えてください。(いくつでも○)

○飲み物⇒

- | |
|-----------------------|
| 1. コーヒー・紅茶・日本茶・中国茶の類い |
| 2. ジュース・炭酸飲料 |
| 3. アルコール飲料 |
| 4. その他 () |

○食べ物⇒

- | |
|------------|
| 1. ケーキ・菓子類 |
| 2. 軽食 |
| 3. ランチ、定食 |
| 4. 一品料理 |
| 5. その他 () |

Q 4. 最後に、次の点について、お考えをお聞かせください。

「このお店を、どのようなお店にしたいと思っていच्छいますか？」

「お客様は、どのようなことをカフェ・喫茶店に求めていると思われますか？」

お店の名前 [_____]

質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。



執筆者紹介

伊藤 木ノ実	(いとう このみ)	観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科生
落合 琴美	(おちあい ことみ)	〃 観光デザイン学科生
勝田 実季	(かつた みき)	〃 観光デザイン学科生
小林 瑞季	(こばやし みずき)	〃 コミュニティデザイン学科生
紺野 くるみ	(こんの くるみ)	〃 観光デザイン学科生
佐藤 未玖	(さとう みく)	〃 観光デザイン学科生
白井 麻莉	(しらい まり)	〃 観光デザイン学科生
田中 楓菜	(たなか ふうな)	〃 観光デザイン学科生
塚越 来未	(つかこし くるみ)	〃 コミュニティデザイン学科生
永井 彩香	(ながい さやか)	〃 コミュニティデザイン学科生
長瀬 真穂	(ながせ まほ)	〃 観光デザイン学科生
中野 沙耶	(なかの さや)	〃 観光デザイン学科生
濱田 芙侑	(はまだ ふゆ)	〃 観光デザイン学科生

編集担当 白井麻莉・紺野くるみ

2017 年度 社会調査実習成果報告書

第 1 回 文京区エリアスタディ

「なぜカフェ・喫茶店を利用するのか？」



ATOMI
UNIVERSITY

編集： 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 2017 年度社会調査実習プロジェクトBAS

発行： 跡見学園女子大学

発行年月： 2018 年 3 月